

発行 一般財団法人 田澤記念館
住所 佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者 小池 幸照
発行所 鹿島印刷株式会社
発行日 2021年3月26日

◆ 田澤記念館の閉館によせて

代表理事 小池 幸照



昭和56年10月に田澤家より、青年団活動や社会教育団体の育成を目的に土地・建物の寄付を受けました。そこで、青年団OBや鹿島市内の有志が中心となり、田澤先生の意志を受け継ぎ伝えていこうという機運が盛り上がってきました。鹿島市城内にある生家跡は土地も広く、環境も申し分ないので「田澤記念館」を建設しようという結論に達しました。建設の趣旨は、田澤精神の継承と生誕地保存です。昭和58年4月に完成し、落成の運びとなりました。この施設は、各種団体の研修や会議は勿論のこと、全国青年団宿泊研修施設としての機能も有しており、全国の青年団員も宿泊ができます。しかし今では、宿泊業務は行っていません。

当会館の運営については、これまで38年の長きにわたって、皆様の賛助会費・維持会費と市からの補助金、及び祐徳自動車、鹿島機械工業、東亜工機、森鉄工、宮園電工、祐徳薬品工業、エスティ工業など、多額の寄付により運営が行われてきました。

田澤記念館が行っている主な活動ですが、田澤先生が、静岡県安倍郡の郡長時代に行っていた青年教育は、現在では「ユースカレッジ」として実践され、現在まで延べ585名の研修生が育ち、青年教育に大きく貢献してきました。もう一つは、鹿島市、嬉野市、太良町で小学校高学年を中心とした「出前授業」が行われています。ここでは、田澤先生が提唱した「一事貫行」を学習し、日常生活に役立てることを目的としています。その他にも青少年の育成活動も行ってきました。

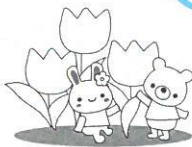
これまで田澤先生を偲び、田澤先生の命日に毎年「田澤記念大会」を実施していました。しかし、生誕100年からは生誕祭に変更し、5年に1度の開催としました。昨年は、生誕135年にあたる年でしたが、コロナ禍で大会を中止せざるを得ませんでした。

田澤精神の啓発は、「青年の父 田澤義舗」の冊子や「田澤義舗物語」を田澤顕彰会で発行しておりますが、数が少なくなってきました。これらの読み物も、幅広く活用いただき好評を得ています。内容も小学校高学年からでも分かる内容となっていますので、今後多くの方に読んでいただけたらと思います。

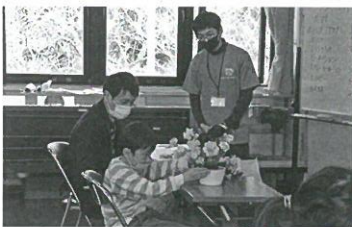
開館から38年、皆様にかわいがっていただいた「一般財団法人田澤記念館」は、3月31日をもって閉館することになりました。経済的に運営が厳しくなったことが主な理由です。しかし、一般財団法人としての田澤記念館は閉館しますが、会館建設時に交わした普通財産譲与契約書第3条によりますと、「譲与物件を指定用途に供しなくなった時には鹿島市に無償で返還しなければならない」という条項があります。今後は鹿島市もしくは他の法人が引き受けてくれるものと信じています。これからも、ユースカレッジや出前授業は行う予定です。田澤精神は必ず継承していきますのでご安心ください。これまで、ご支援ご協力をいただきました皆様方に感謝申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸を祈念し、閉館のご挨拶と致します。

鹿島市青少年育成社会体験事業

「フラワーアレンジメント」



鹿島市からの委託を受け、鹿島市連合青年団と共同で計画しました。今回は、第2弾として、2月20日(土)に、市内の小中学生親子を対象とし、フラワーアレンジメントに挑戦しました。親子20組が参加し、親子での楽しい時間となり、みなさん上手に生けることが出来ました。



吉野ヶ里町青少年育成町民会議

研修会の講演依頼がありました

吉野ヶ里町青少年育成町民会議より田澤義舗についての講演依頼がありました。来年度の5月30日、閉館後となりますが、松本真氏が講演を行います。今後も、田澤義舗の啓発活動には力を注いでいく予定です。

今後の活動について

◆ 出前授業

今年度は、鹿島市・嬉野市・太良町の小学校13校で出前授業を実施しました。コロナ禍の影響で学年毎ではなく、クラス毎の実施となり、授業回数は例年より多かったです。小学校へ出向いての『出前授業』は、田澤記念館が閉館しても続けていくべきだと考えております。

◆ 啓発活動

鹿島市生涯学習課で行なっている『出前講座』の中に、「輝く郷土の偉人」という項目があり、田澤義舗について講義の要望があれば、鹿島市内の団体に出向いてお話をします。



ユースカレッジ

平成4年度に始まったユースカレッジも今年で28年目となり、多くの青年たちが研修に参加しました。初めの頃のユースカレッジは夜に開催されており、青年団の延長のような感じで開催されていたようです。自分たちで登山やクリスマスパーティーなどを企画・運営していたようです。現在は昼に開催していることもあり、企業の若手社員の研修の場となっています。講義では社会人として必要な知識を身につけ、視察研修ではいろいろな施設を見学し視野を広げています。田澤記念館の最後のユースカレッジとなった今年度ですが、いくつか感想を掲載させていただきます。

～第6回 ユースカレッジ～ (令和2年12月16日開催)

講義「田澤義舗に学ぶ」 講師:杉谷雅博氏

田澤義舗の考え方に大きく影響していたのは、満州に卒業旅行へ行き、日本人の傲慢な態度を見たことだと知りました。この経験をもとに、教養の重要性を感じ、青年団活動に繋げていたことを知りました。日本の発展を支えた人物の中で、日本に欠如しているものを補うという方法で発展を底支えた人なのだと思いました。また、近年SNSでの誹謗中傷が問題となっています。これは田澤義舗が満州で経験した傲慢な態度、差別的な考え方と共通するものではないかと思います。そして人種差別、性差別、学歴差別、コロナ差別など多くの差別がSNSに集約されているような気がします。現代の日本に田澤義舗が生きていたら、恐らく失望するのではないかと思いました。そこで、田澤精神で考えてみると「教養」が必要になると思います。経済・情報・社会などの発展、発達に伴って、その都度教養が必要なのだと思いました。また、田澤義舗の人生に触れ、学があっただけではなく、深い人間愛を持っているという道徳心を育てていたことが一番の強み・魅力だと思いました。

～ユースカレッジ全体(第1回～第8回)の感想～

今回ユースカレッジに参加させていただき、様々な内容の視察研修や講習を受けることができました。普段生活する上でなかなか触れることがないような内容も多く、貴重な経験となりました。

研修の中で一番印象に残っている内容は、研修参加者同士の職場紹介です。東亜工機さんや森鉄工さん、鹿島機械工業さんは鹿島を代表する企業です。個人的にも、前職が機械設備関係であったこともあり、大変興味深く、3社の技術力の高さや規模の大きさに驚きました。また、市役所の同期メンバーの業務内容や取り組む姿勢、考え方などを知ることができ、新たな発見が多くありました。研修全体を通しての感想は、いろんな方々が強い思いを持って取り組まれていることで、私たちは快適で安心安全な生活が送れているのだと思いました。田澤義舗氏は、「青年の父」と称され、勤労青年への教育に取り組む、また正統な民主政治を求めて理想選挙にも取り組まれたことで、現代社会の礎になっています。

その他、鹿島の文化や観光を担う祐徳稲荷神社や肥前浜宿のまちなみ保存の関係者の方々、AEDの使用方法などを教えていただいた消防関係の方々など、様々な方との繋がりにより私たちの生活が成り立っているのだと感じました。私は市外出身でもあり、鹿島の文化や歴史など知らないことも多く、一貫して貴重な経験となりました。

今後は、市民の方々の目線に立ち、何を求められているか、どうすればより快適に過ごせるようになるかを考え、鹿島市の更なる発展に貢献できるよう尽力していきたいと思います。



ユースカレッジ開講からの講義の中で、田澤義舗氏に関する内容だけでなく、社会人として身に付けておきたいお金の話や、地元の寺院や施設の見学、更には自らの職場を紹介する等の多岐にわたる、かつ今後の社会人、鹿島市民として生きていく中で役に立つであろう内容のものばかりであったと感じます。

また自らの知識の習得、人間的成長を図れたのみでなく、同世代の地元企業で奮闘している方々とも横の繋がりができた(コロナ禍でなければより強い繋がりになったであろうと感じる)ことを、大変嬉しく感じました。またいつか集まりたいと考えています。



この1年の研修で個人的に印象に残った(感銘を受け、自分もこうなりたいと思った)ことが2つあります。

1つ目は、中村一之さんの「いのちの理由」というテーマの講義でおっしゃられた「いただいたものは飲んで受け取らないと、そのもの自体がつまらなくなってしまう。だからこそ、我々の命もいただきものであり、すべての命を尊重し一生懸命生きないといけないよ。」という言葉です。この信念を持って自らの周りの人に対して接していき、また自分も一生懸命かつ楽しく(飲んで)生きていきたいです。

2つ目は、鹿島市内の企業視察です。鹿島で生まれ育って初めて市内の企業がここまで海外に対し販路を広げ、世界的にも高いシェアを誇っていた事を知りました。

私も闘うフィールドを広げ、鹿島市を日本中、世界中にアピールしていける誇りある市にしたいと思いました。

これまでのユースカレッジを振り返って、田澤義舗氏について、また田澤氏の精神を学べた研修でした。佐賀では七賢人が有名ですが、それ以上の功績を残した人物が地元の鹿島で生まれ育たれたことを誇りに思います。

田澤氏の言葉に「郷土に錦を着て帰ることを考える前に、郷土を錦で飾る事を考えよ」とあるが、郷土を知り、良い所を伸ばすという田澤精神は、最も見習うべき姿勢であると感じました。

ユースカレッジの中で、一番印象に残った研修は、ユースカレッジ生それぞれの職場を見学することでした。工場内での緻密な作業や製品を出荷するまでの工程を知り、鹿島が世界に誇るものづくりを体感することができました。鹿島には他にも素晴らしい自然や歴史や文化があることを、この研修を通して学習することができました。自分はもちろん、鹿島に住んでいる人、そして市外の人たちにも魅力を発信していければと思います。

そして今後も田澤氏についてや、また将来の鹿島を担う人たちの交流の場としてユースカレッジが続いていけばと思います。